

令和6年度 東山開晴館 学校経営計画

1 学校教育目標とめざす姿

◆学校教育目標

□ 最高教育理念

「澄みゆく心」「かがやく志」の育成

□ 校 訓

克己 進取 礼節

□ 教育目的

未来を創造し、たくましく生き抜く力の育成

◆めざす姿

□ めざす子ども像

卒業時（3rd ステージ）

- 挑戦的に学ぶ姿
- 卑怯を許さない姿
- つながりを喜びとする姿 以上3つ姿の実現

2nd ステージ

- わからないことを克服しようと努力する子ども
- 下級生を思いやり見守る子ども
- 協力してやり遂げる子ども

1st ステージ

- やればできるという自信あふれる子ども
- いけないことを「いけない!」といえる子ども
- 自分大好き、友だち大好き、なかよく遊ぶ子ども

□ めざす学校像

- 義務教育学校のよさを最大限に活かし、豊かなつながりのあふれる学校
- 探究心をもち、社会を生き抜く力を育てる学校
- これからの社会に貢献できる人材を輩出できる学校

□ めざす教職員像

- 「めざす子ども像」の実現に向けて、自ら明確なビジョンを持ち、主体的、協働的に学校経営に参画する教職員
- 学ぶ意欲にあふれ、課題解決に向けて常に謙虚に自らのスキル向上を目指す教職員
- 教職という尊い仕事を自覚し、愛情と慈しみの心を持って子どもたちに接し、未来の人材を育成するという使命を持つ教職員

2 学校経営方針

1 基本方針

本校は開校以来、子どもに「生きる力」をつけることを最終目的とし教育活動を進めてきた。その開校当時の思いは今年度も変わりはないが、特にVUCA（先行き不透明で将来の予測が困難）といわれる時代において、子どもが自分や社会の課題に目を向け、課題解決に向けて主体的に行動していく力が一層求められることは間違いない。それらの力をつけるためには、これまで本校で取り組んできた「探究」の果たす役割は非常に大きい。今年度はこれまでの総合的な学習の時間「東山探究」を見直し、一層子どもが自分の生き方や社会に目を向け、課題解決に主体的に取り組む力を身に付けられるように改善を図っていく。それに伴い、本校で今年度育成したい資質・能力を「発信力」とする。発信することは探究の最終段階であるが、当然、発信にはそれに至るまでに様々な力が必要となるのはいうまでもない。したがって発信力を育てる過程でそれに必要な力も複合的に身につけさせたいと考える。なお、発信力は総合的な学習の時間のみならず、各教科の時間、学校行事、クラブ活動や部活動等、あらゆる場面で一体的に育成していくことをめざす。

また、子どもが将来にわたり豊かにたくましく生きていくためには、生きる土台となる力（※非認知能力）が大きな役割を果たすことがわかっている。身につけた学力が“生きて働く学力”となるためにも非認知能力の育成が重要である。そのために、教職員一人一人がそれを認識しつつ、施設一体型小中一貫校の特性を十分に生かした教育活動を組織的に進めることで、学校全体で子どもの非認知能力を育てる環境づくりを行う。さらに学校経営には、教職員と保護者、地域が一体となり、立場を越えて連携しながら進めていくことが不可欠である。また地域に根差した信頼ある学校となるよう、積極的な情報発信にも努める。

※非認知能力…学力テスト等で測れない、生きる土台、生涯の学びを支える力

キーワード

探究 発信力 非認知能力

2 重点項目

1. 子どもの学力向上を根幹に据えて学校経営を進める。
2. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。また、9年間の一貫した学びを実現するために、学びの連続を図るカリキュラムの構築に向けて、単元の系統を意識した授業づくりについて研究を進める。
3. すべての教育活動において、探究のプロセスをふまえた取組を実践する。
具体的には、東山探究や各教科の授業の中で「発信力」の育成をめざす。
4. 学力テストなど数値化できる認知能力と、テスト等で測れない非認知能力とを全ての教育活動を通して一体的に育成する。

5. デジタルシチズンシップ教育を推進し、デジタル技術を自由に活用できる力を養い、社会に参画しようとする態度を育てる。
6. 各種調査の結果や質問紙・アンケート・学校評価などの分析により児童生徒の変容を確認、共有し、本校が抱える教育課題を明確にする。その上で、学習に遅れの見られる児童生徒が自ら学ぶ喜びを感得できるよう、研究主任を中心として組織的に取り組む。また、児童生徒の状況に鑑み、適切に家庭学習が進められるよう手立てを施す。
7. より良い集団の形成を図る観点から、児童生徒会活動の活性化を進める。そこでは、児童生徒が自他を尊重し、協働的な自治集団づくりを行うとともに、自主的な活動や自己実現を保障する場とする。
8. 日々の観察や情報収集を通して、子どもたちの困りを的確に把握し、個に応じた支援を積極的に図っていく。また、学校に来にくい子どもの居場所づくりを組織的に行う。
9. 児童生徒の生活のあり様を把握し、健康増進や「生命」を大切にする教育を推進する。
10. 「めざす子ども像」「めざす学校像」「めざす教職員像」を達成するために、報告・連絡・相談を密にする中で教職員の意識改革を図るとともに、ミドルリーダーを中心とした創造的、組織的な学校運営を推進する。
11. 働き方改革の視点から、行事の精選をはじめとする教育活動の見直しを進めるとともに、義務教育学校ならではの強みを生かした教育を提供する。